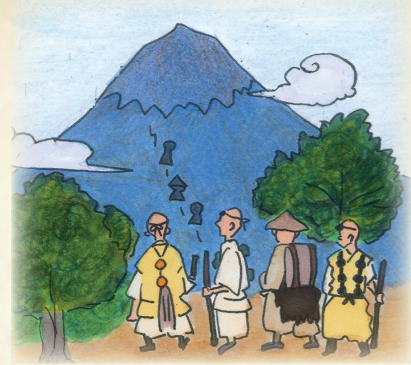


# 今川氏と富士宮

## 戦国時代の富士山登拝

戦国時代、富士山では神や仏の力を得ようとする宗教的な登山(登拝)が盛んに行われていました。

富士山表口登山道の拠点として栄えた、富士山興法寺(現在の村山浅間神社・大日堂)や、富士山本宮浅間大社には、多くの修験者や登山者が訪れました。



室町時代に描かれたとされる絹本著色「富士曼荼羅図」には、富士登山の拠点となった重要な施設や、水垢離で心身を清めてから山頂を目指す人物の姿が描かれています。



湧玉池(大宮)



龍頭池(村山)



御室大日堂

中宮八幡堂

富士山興法寺

富士山本宮浅間大社

清見寺

▲絹本著色「富士曼荼羅図」(国重要文化財・富士山本宮浅間大社蔵)

## 今川氏の重要施設「清見寺」

清見寺(静岡市清水区)には、関所(清見関)が設置され、登山者はここで、通行税を支払いました。

この頃、清見寺の住職で、今川義元の軍師として多くの合戦を指揮した太原崇孚雪斎が、竹千代(後の徳川家康)に戦法や戦術などを教育したとされています。



## 今川義元と村山

富士山興法寺の周辺には、村山三坊を中心に宿坊(宿泊施設)が立ち並び、村山や富士山中では、多くの山伏(修験者)が活動していました。



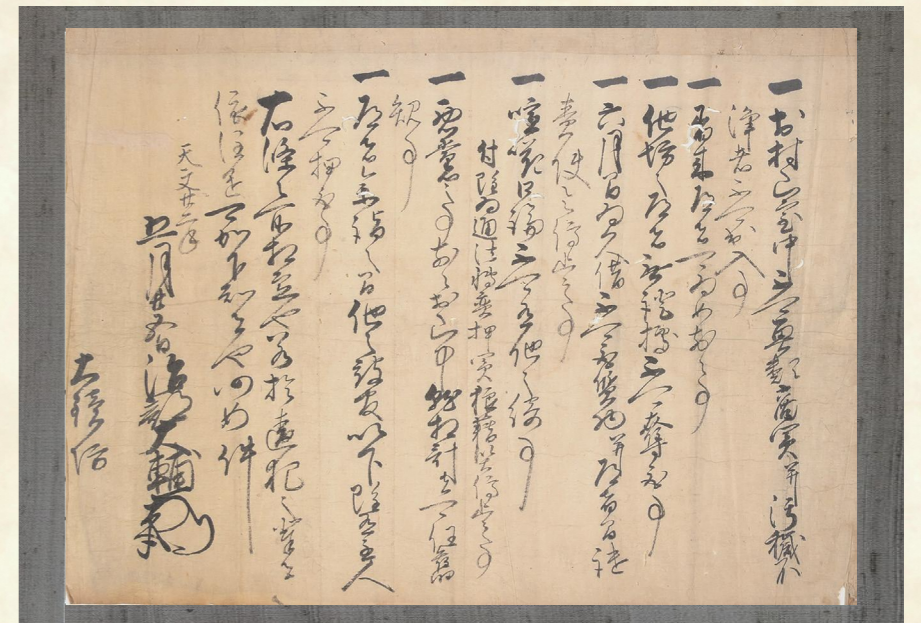
今川義元は、富士山中の施設での活動を保証したり、隣国から訪れる山伏を監視させるなど、戦乱の中で取り締まりや情報収集に、村山の山伏を利用していただとされています。

河東<sup>※1</sup>での戦いが収まると、義元は、大規模な検地を行い、武士の領地を保証したり、寺社の権利を保護するなど、戦乱の舞台となった河東の再建に向けた政策を展開しました。

義元は、富士山興法寺からの要望を受け、村山三坊の一つ「大鏡坊」に、富士登山期間中の村山の治安を守るための判物<sup>※2</sup>を発行しました。

判物には、「ふさわしくない者の出入りや争いなどを禁止し、破った者については今川氏に報告するように。」と書かれています。

※1 富士川から東の駿河国一帯  
※2 戦国大名などの花押(サイン)のある文書



▲今川義元判物(1553年・東京大学資料編纂所撮影/村山浅間神社蔵)

## 今川氏の最盛期を築いた「今川義元」

義元は、今川氏の当主となると、幼少期に教育係だった雪斎とともに、数々の合戦に勝利し、北条氏康や武田信玄と同盟を結ぶことにも成功しました。

土地の面積や収穫高などを調べる大規模な検地をいち早く行ったほか、金山開発や優れた商業政策などによって、駿河国・遠江国・三河国を豊かな国に発展させました。

尾張国に侵攻していた義元は、1560年、桶狭間の戦いで織田信長に討たれました。



▲今川義元像(臨濟寺蔵)

義元は、その実力から「海道一の弓取り(東海道一の武将)」と呼ばれました。

## 富士山中の施設を管理した「村山の山伏」

登山シーズン中、村山の山伏は、富士山中の中宮八幡堂(栗倉)や御室大日堂などの施設に常駐していました。

中宮八幡堂(栗倉)では、登山者の確認のほか、金剛杖の販売などもしていました。馬返しともいわれるここで、登山者は馬を降り、歩いて山頂を目指しました。

現在は、祠が建てられ、毎年10月に例祭が執り行われています。



中宮八幡堂跡

御室大日堂では、富士山興法寺などで発行される登山手形(許可証)を確認しました。絹本著色「富士曼荼羅図」には、御室大日堂の上で登山者に松明を渡す人物が描かれています。



# 今川氏と富士宮

## 戦国時代の門前市場

富士山本宮浅間大社の門前では、全国から訪れる富士登山者に向けて、毎月6度、定期市が開かれています。

しかし、市場では、押し買い\*1や狼藉\*2などの非法行為が絶えず、売買への課税や、浅間大社門前への関所(神田橋関)の設置が、無断で行われるなど、安全な商売や行き来ができない状態にありました。

※1 安い価格で強制的に買い上げられること  
 ※2 乱暴行為のこと

## 今川氏真と大宮

市場を管理する富士信忠\*3は、今川義元の跡を継いだ子・氏真に対し、市場の平和保障を求めました。

氏真は、信忠からの要望を受け、富士大宮を「楽市」とすることを定めた朱印状\*4(富士大宮楽市令)を発行しました。

朱印状には、「税金の徴収や神田橋関を禁止する。反対する者がいたら、報告するように。今川氏が直接命令を下す。」と書かれています。

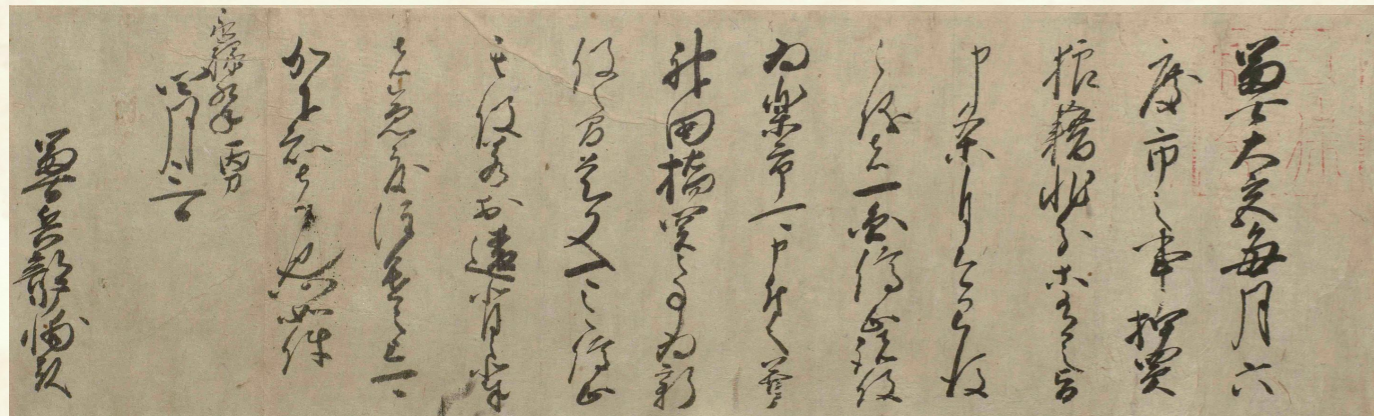
※3 大宮城を拠点に、今川氏の家臣として活動した浅間大社の大宮司(役職)  
 ※4 戦国大名などの朱印のある文書

## 戦国大名の「楽市令」

戦国大名は、国を発展させるための商業政策として「楽市令」を出しました。この法令によって、市場で独占などの特権が廃止されたり、課税が免除され、自由な経済活動ができればようになりました。

### 全国の主な楽市令

年	戦国大名	場所
1566	今川氏真	駿河国 大宮
1568	織田信長	美濃国 加納
1570	徳川家康	遠江国 小山
1577	織田信長	近江国 安土
⋮		



▲今川氏真朱印状(1566年4月3日・浅間大宮司富士家文書/静岡県立中央図書館蔵)

## ゆかりの地



**富士山興法寺(村山浅間神社・大日堂)**  
 世界遺産富士山構成資産の一つ。数百年の間、富士山信仰の重要な拠点として、多くの修験者や登山者が訪れた。



**大鏡坊墓所**  
 村山集落を管理した村山三坊(宿坊)の一つ大鏡坊は、主に村山修験の祖・末代上人を祀る大棟梁権現社を管理した。



**西見付跡・東見付跡**  
 富士山修験の拠点として栄えた村山には、江戸時代、伊豆国・伊勢国・美濃国・尾張国などから多くの登山者が訪れた。駿河国の今川氏は、富士山中で修業を積む村山の山伏の行動力と情報力を頼りに、情報収集したとされる。集落の東西に見付を設け、不審者の出入りを取り締まった。

## 大宮地域



**神田市神社**  
 近くの浅間大社の門前では「富士大宮楽市」が開かれた。「市神さん」と呼ばれる商売の神が祀られ、大正11年に祠が造られた。

## どうなる家康 「元服、そして初陣へ」



1555年、竹千代は今川義元の駿府館で元服\*1しました。これを機に、幼名の竹千代から、「元信\*2」に改名しました。

※1 成人を示す儀式  
 ※2 「元」は「義元」から受けたもの



元信は、義元の有力家臣・関口氏純の娘「築山殿」と結婚しました。この結婚により、今川氏と岡崎の松平氏のつながりは、さらに強いものになりました。



元信は、義元に命じられ、織田氏の三河国・寺部城を攻め落としました。このころ、「元康\*」に改名しました。

※「康」は武名の高い祖父「松平清康」から受けたもの



元康は、義元の尾張侵攻の先行部隊として、織田氏が築いた尾張国・丸根砦\*を攻め落とし、大高城に食糧や弾薬を運び入れることに成功しました。  
 ※幅3.6mの外堀が囲む東西36m・南北28mの砦